

くらしのすまいりんぐ

地球と人に優しい家づくり・くらしづくりの情報広場

2020年12月1日発行
NO.0078
発行責任者：(有)文化舎東毛
〒376-0101
みどり市大間々町大間々1190-4
☎0277-73-4850

今月の話

1. 今月の話題 ~2050年日本も温室効果ガス実質ゼロ~
2. 時事ネタ ~家事をしない日本の男~
3. 建築知識 ~コロナの飛沫と換気~
4. ハイブリッドソーラーハウス
5. 辛口コラム ~日本のコロナ感染は著しく少ない!~



今月の話題 ~2050年日本も温室効果ガス実質ゼロ~

10/30に菅首相が所信表明で温室効果ガスの排出を実質ゼロとする目標を宣言しました。宣言の概要は、**石炭火力発電をやめ原発を一定程度稼働させ、次世代型太陽電池やカーボンリサイクルなどで温室効果ガス排出ゼロを達成する**というものです。

① 石炭火力発電をやめ原発を一定程度稼働することについて

日本が石炭を使わなくなった分、他国の石炭消費が増加しては意味がありません。生きていくために安価な化石エネルギーを使わざるをえない人も沢山います。温暖化対策が必要と分かっているにもかかわらず、化石エネルギー業界関係者の抵抗は激しくなります。事実、米国大統領選でバイデン氏が化石エネルギーから再生可能エネルギーへのシフトを明言したことで、選挙戦が大変苦しくなりました。

またいくら原発自体の安全性を高めたとしても放射性廃棄物の処分方法が見つかるまで相当な時間がかかるし、見つからない可能性も高い原発を一定程度稼働し続けることは難があります。

② 次世代太陽電池について

現在主に流通している太陽電池は結晶型と呼ばれるもので、通年の発電効率は10%程度。次世代型はその5倍ほど。次世代型は、材料や材料製法が異なる数種類の候補があがっているものの、原料に使われる重金属の安全性や原料の確保、有機化合物の不安定さなどの課題があり、まだ市販化されていません。

③ カーボンリサイクルについて

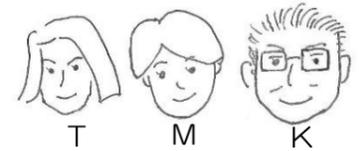
空気中の二酸化炭素を、バイオ燃料、プラスチック製品、コンクリート、海洋中の藻類などに取り込ませることで空気中の二酸化炭素を減らすこと。一部始まっていますが、一般化はまだままだようです。

以上のように、ハードルが高そうな温室効果ガスゼロ化ですが、まず住まいについて言えることは、屋根壁天井の断熱とサッシの性能を高め、暖房冷房をできるだけ使わなくても快適に過ごせるようにしておき、次世代技術が普及し始めたときに採用できる準備をしておくことが良いのではないのでしょうか。

あの中国が日本より先に2060年までに温室効果ガス排出実質ゼロ宣言をし、2030年までに石油燃料車販売の禁止など具体的な政策を出していることから、私たちも世の中の流れとしてとらえるべきだと思います。

時事ネタ ~家事をしない日本の男~

日本の男性家事分担率は、世界的に見て最低レベル。熟年離婚の原因にもなっているそうです。



Tさん 日本の男性が家事をしないのは、ひどすぎますね。

Mさん うちの旦那は、指示すればやるけど、最近は指示を出すのが面倒になってきました。

Tさん Kさんは家事やるんですか？

Kさん 僕は、“まし”な部類ですかね。料理や掃除、洗濯のことが分かっていないとお客さんとの会話に説得力がないですから。家事分担というよりは仕事の延長として考えています。

Tさん ずっとやり続けているならいいんじゃない。

Kさん 家事をやっていると、よその女性受けがいいからやり続けますよ。

Tさん それぞれ!! 週2でご飯作るだけでママ友にほめられて旦那が調子に乗るんです。ほんとに腹立たしい。パパ友は本当に家事してないみたい!!

Mさん ですね。では旦那に、何からやってもらうのがいいですか。

Kさん 包丁研ぎとかどうですか。研いだら切れ味試したくなるので、お好み焼きのキャベツみたいな野菜切をしてもらったりとか。あと、レンジフードの掃除。頻度が少なく、ちょっと時間がかかる作業がいいんじゃないですか。

Mさん なるほどね。小学生の二人息子に家事をがんばらせてますが、旦那の役割を増やします。

Kさん ぼくのところも、息子が中学生の時は家族の分も弁当作っていました。将来、海外に行くことになったら、家事分担は当たり前という説得には動かなかったけど、大学や社会人になれば料理できる男子は女子受け間違いなしというところに反応してやりましたね。

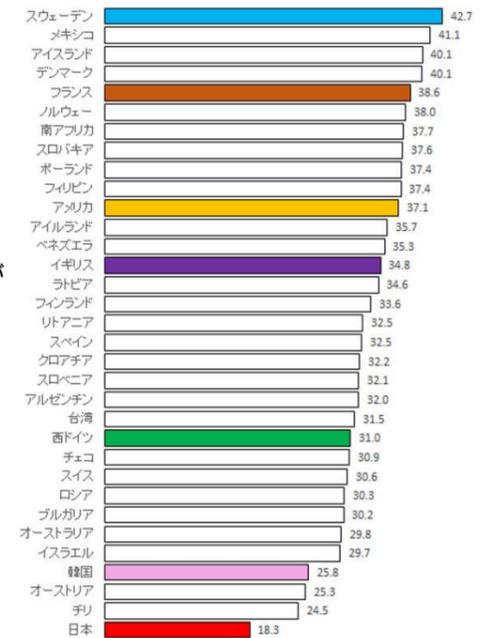
Mさん それいいですね。将来の女子受けをほのめかして、徐々に家事率を増やしていきますよ。

Tさん なるほど。息子にもその作戦でもう少し手伝ってもらうようにします。

Kさん 共働きベースの社会になったんだから、子どものうちから家事分担に取り組むべきでしょう。

Tさん 子どもの頃からの家事をするのはその通りです。そもそも成人男性の家事は手伝ってる感があり、自分の役割と考えてないんですよね。中高年の家事しない男性は退職後の熟年離婚危機がやって来る人もいますよ。早く頭を切り替えないとだめだと思います。

図1 子持ちの有配偶男性の家事・家族ケア分担率

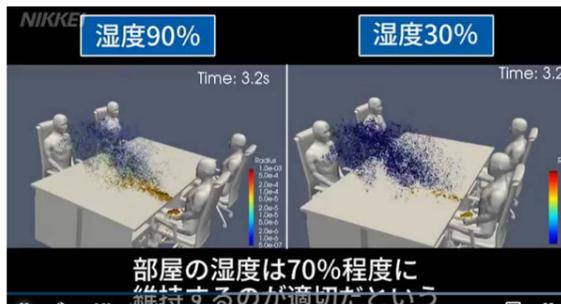


* 計算式 = 男性の平均時間 / (男性の平均時間 + 女性の平均時間)
* 18歳未満の子がいる有配偶男女の週間平均時間をもとに計算。
* 「Family and Changing Gender Roles IV - ISSP 2012」より筆者作成。



建築知識 ～コロナの飛沫と換気～

コロナ対策の一環として理化学研究所が世界最高速のスーパーコンピューター「富岳」を使って飛沫の飛び方を計算しました。食事中のようにマスク無しでテーブルに4人座って会話している場面です。向かい合う人よりも隣にいる人のほうが飛沫を5倍多く浴び、斜め前の人には1/4しか浴びない、等の解説がある中で、室内湿度と感染リスクの関係が示されています。例えば、1.8m離れて向かい合ったとき、湿度30%の時は飛沫の水分が蒸発して微小化するため、湿度60%時に比べ2倍以上の飛沫を浴びるとされ、研究者



nikkei.com より

は「部屋の湿度は70%が良く、換気もしっかりすべし」と。でもこれは間違いです。冬に換気をすればするほど、乾燥した外気が室内に流入し部屋は猛乾燥。例えば7℃湿度65%の外気が部屋で20℃に暖房されると湿度は27%程になります。いくら加湿しても換気をすれば湿度はどんどん逃げてゆきます。

換気は止めて加湿したらどうでしょう。湿度が上がり大喜びするのはダニです。私の孫は2歳の時、換気の悪いマンション暮らしで、ダニによる小児喘息一歩手前でした。家の中で飛沫を飛ばすのは家族ですからコロナがあればとくに貰っています。WHOが推奨する湿度は30%以上。パリの美女もお肌パサパサにはなっていません。所定の換気量を確保して24時間換気をするのが冬の健康生活の要です。

ハイブリッドソーラーハウス

秋から冬にかけて、ヒートショックが起こりやすくなります。あたたかい部屋から寒い部屋への移動などをした際、急激な温度変化によって起こります。「お年寄りにはヒートショックのリスクが高い」といわれていますが、「若者だから安心」というわけでもありません。全年齢に起こりうることなので、注意していきましょう。

ハイブリッドソーラーハウスはヒートショックになりにくい!!!

ハイブリッドソーラーハウスは24時間床暖房なので、家全体が暖かいです。部屋ごとの温度差を感じることはほとんどありません。

24時間床暖房というと、光熱費が気になりますが、ハイブリッドソーラーハウスは太陽熱で温めているので、お財布にも環境にもやさしいです。また、床暖房のために循環した不凍液は、ついでにお湯沸かしにも使います。夏になると、暖房は運転を止めて、給湯のみで運転します。

高齢者の方にとって、特に冬の寒さは堪え難く、つい身体を動かさなくなります。しかし、ハイブリッドソーラーハウスでは冬場でも足元が暖かく、部屋全体が暖かく感じます。24時間部屋の暖かさが維持されるので、自然に活動的な生活になります。



辛口コラム ～日本のコロナ感染は著しく少ない!～

日本のコロナウイルス感染者が10万人、死者は1700人少々、米国は感染850万人、死者120万人等の報道が良く見られますが、人口が全く違うので各国の感染の酷さが比較できません。

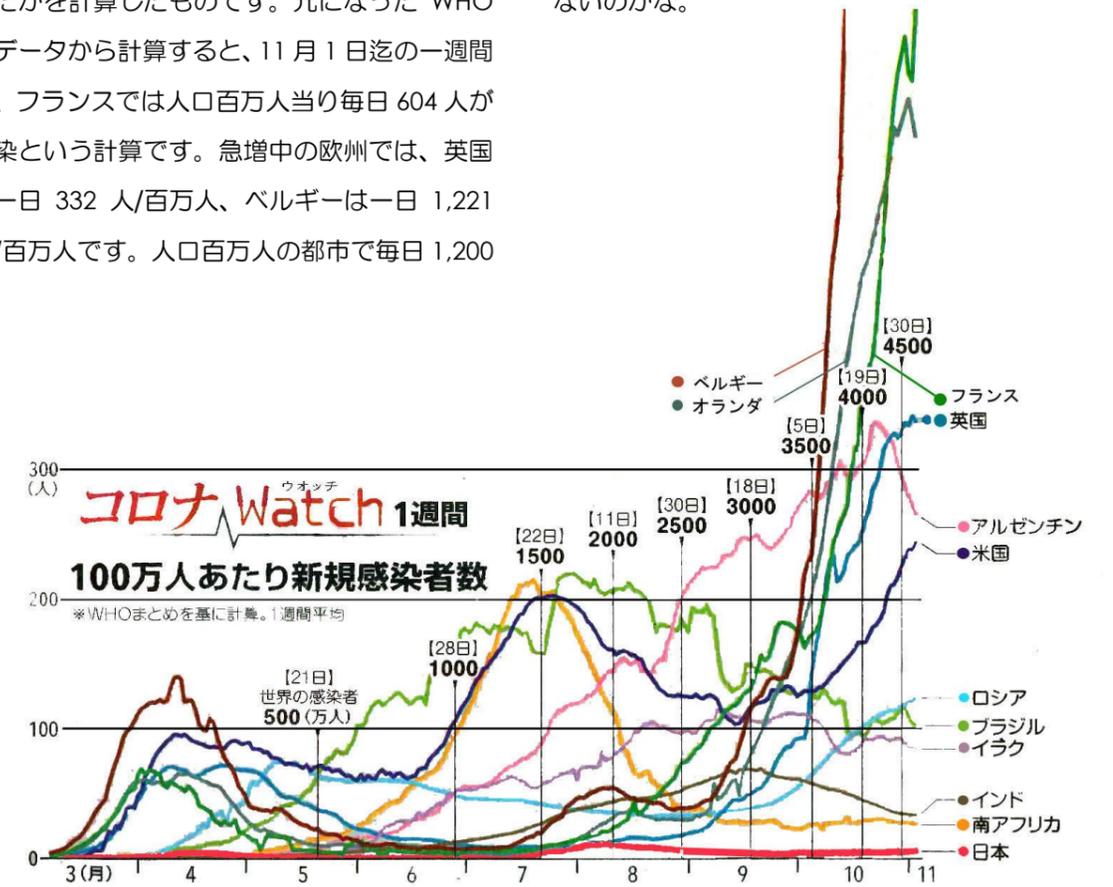
人口が日本の5倍の国なら、感染者数が5倍だとしても同程度と考えられるのです。都心部は明らかに入出が少なく経済的危機におちいる人や会社も多いことは想像に難くありません。では日本の感染は他の国と比べてどれほど深刻なのでしょうか？

見つけたのが中日(東京)新聞掲載の11月1日のグラフで、同紙は毎週更新掲載しています。各国人口百万人当り、週平均で一日何人が感染したかを計算したものです。元になったWHOのデータから計算すると、11月1日迄の一週間に、フランスでは人口百万人当り毎日604人が感染という計算です。急増中の欧州では、英国は一日332人/百万人、ベルギーは一日1,221人/百万人です。人口百万人の都市で毎日1,200

人ずつ感染者が出る状況を想像するとゾッとします。

あのデタラメな米国は人口が広大に広がっているせいか、ヨーロッパに比べて割と少なく一日237人/百万人ペース。さて日本はといえば一日5.2人/百万人、韓国は2.2人/百万人と、欧米に比べ驚異的に感染が少ないのです。

コロナの重症化率は人種によって差が大きいと言われていますが、感染率も違うのでしょうか？もう少し分析をしても良いのではと思わなくもありません。しかし、経済停滞の後遺症が長く尾を引き、そのせいで失職する人もいらっしゃると思いますが、何とかこのまま抑え続けるしかないのかな。



中日(東京)新聞より

